



プロジェクト名称

## 木沢の「わ」プロジェクト

プロジェクト活動概要



地方のような都市から離れた地域（特に中山間地域）では、人口減少に伴ってさまざまな問題を抱えている。本プロジェクトの活動地・徳島県那賀町木沢地域もそのひとつで、古くから伝わる拝宮和紙などの伝統工芸や人形浄瑠璃・農村舞台などの文化、さらには木沢村に住む人々の暮らしの知恵がいま無くなろうとしている。そこで、昨年度は使われていない古民家を再生し、訪問者に木沢村を知ってもらうための資料館、訪問者と住民が交流できるワークショップスペース等の機能を兼ね備えた拠点を作成させた。さらにこの拠点づくり

りのプロセスの中でまちのさまざまな住民を巻き込むことで、孤立していた住民同士をつなぐコミュニティの場を創出するとともに、私たち学生との交流によって住民たちの地域活性化に向けた意識を向上させた。

今年度は私たちの目的である木沢村の活性化を実現するために、昨年度完成した拠点の活用を開始する。昨年度とは異なり、徳島周辺の大学の学生を誘致するためのイベントを企画・運営し、新たな交流人口を増やすとともに他学生団体との共同イベント開催を目指す。また、木沢村の年間スケジュールに合わせたイベントを開催することで、住民や周辺の学生などを主体とした地域活性化の取り組みを促すためのモデルケースを創出する。

プロジェクト終了後に目標とする成果・結果 / その進捗

- ① 地元のスケジュールに基づいたイベント企画によるモデルイベントの創出と住民主体による新たな取り組みの創出
- ② 中山間地域におけるコミュニティ拠点の活用とその中で得られる利用者のニーズ調査やイベント企画
- ③ 木沢村で地域活性化に取り組む新たな学生主体を 2 団体以上誘致する

これまで 8 月・11 月と木沢の地域行事に合わせてイベントを実施した。今回の 2 月は例外であるものの、前の 2 回以上に多くの地元住民の方に参加していただいた。活動場所はゲストハウス杉の子を中心に、村の集会所や中学校の体育館など地域の拠点施設といえる場所を利用させていただき、用途によって意見交換会や料理教室、バスケットボール大会などを企画することで学生・地元住民ともに拠点の新たな使い方の創出ができたといえる。8 月・11 月では学生団体を各 1 団体ずつ誘致し、2 月にはそれら 2 団体を合わせて誘致し意見交換会を行い、来年度以降の主体的な活動イメージを創出できた。



活動状況報告 & 活動写真

活動期間：2017年1月1日～3月31日

2月には今年度最後のイベントとして、8月と11月のイベントで招待した徳島大学の「ふるさと愛好会」と「四国栄養学生団体 Nuways」に声をかけ、芝浦工大の学生を含めた14名で民泊体験を行った。

訪問期間は2/19～22の4日間

初日19日には地元の若者たちとバスケットボール大会を実施。参加学生の中にはバスケットボール経験者も多く、共通の特技からか学生と地元の若者たちの距離はぐっと近くなり、試合を重ねるごとに意気投合していた。大会後の食事会では、「こんなにたくさん学生が来てくれるんだから、おれたちも何かやりたいな！」との声も上がり、今後の村の活性化について大いに盛り上がった。バスケットボール大会の様子は地元の新聞「徳島新聞」に取材していただき、翌日の新聞に掲載された。

19日夜～21日に実施した民泊体験は地元の婦人会「杉の娘」の4名（えみこさん、くにえさん、てるこさん、かずこさん）にご協力いただいた。最初は学生と杉の娘ともに緊張した様子であったが、いつの間にかお互いを名前で呼び合うようになっていた。3日間を通じて木沢の歴史や食文化などに触れるだけでなく、一緒に生活することで数時間のイベントでは成しえない「おばあちゃんと孫」のような深い関係づくりができた。

日中には文化体験として木沢伝統の紙漉き体験や数多く残る農村舞台の跡地を散策した。普段生活する都会では見ることのできない古民家や街並みなどの風景に触れた。

最終日22日には参加学生全員がゲストハウスに集合し、木沢で過ごした感想を共有した。そこからワークショップ形式で団体ごとに「木沢で何ができるのか」、また、「木沢でやってみたいこと」を発表し、意見交換を行った。「元地域おこし協力隊」で現在は「ゲストハウスオーナー」兼「移住交流支援員」を務める桑高さんにも今後の活動や展望も話していただいた。今回のイベントでは、民泊を含め様々な木沢を体験し知ること、それぞれの団体が今後の活動のヒントを得ることができたと感じる。何よりも「杉の娘のやさしさ」という我々も感じていた木沢の魅力を他団体に知ってもらうことができ、学生たちが木沢を出る際には「行ってきます！」と杉の娘たちに声を掛け、自身らがまた木沢を訪れることを約束した。

今年度最後の活動としてふさわしい【木沢の「わ」を広げる】イベントとなった。



(写真)バスケットボール大会の様子



(写真)20日の徳島新聞掲載記事



(写真)紙漉き体験の様子



(写真)民泊体験の様子



(写真)意見交換会の様子



## ○活動の様子



### 今後の活動計画、目標、意気込み

今年度は、現地で主体的に活動する学生団体を誘致することを目標に活動してきた。結果として、徳島県の大学生団体 2 団体を木沢とつなげることができた。

これまでは木沢の活性化に取り組む現地プレイヤーがいなかったことから、我々がそのプレイヤーとして活動してきたが、東京と徳島という距離の遠さから移動時間や交通費を課題に感じることも多かった。

これからは建築を学ぶ学生のスキルやこれまでの活動の経験を活かし、現地の学生団体のサポートや東京での活動へ展開する予定。